

府立茨木支援学校



テーマ：つながりが見える！わかる！

～シラバス作成から評価まで 教科の視点で子どもたちの成長を捉えよう！～

概要

昨年度のパッケージ研修支援では、「単元(題材)設定から評価まで授業づくりの方法や工夫についての取組み」をテーマとして、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりを行いました。その実践を通して、授業者及び研究部員、教育センター担当者等が「チーム」として授業改善を行い、協議を通して授業づくりのポイントを共有することができました。

今年度は、各教科における評価規準について個別の指導計画、指導要録とのつながりが見えるように、小学部と高等部で研究授業を行いました。小学部の「国語科・算数科」の授業では、教科の目標設定から評価までのつながりが分かるように、評価規準の設定や指導・支援の良い方法を模索しました。高等部の「保健体育科」では、授業者全員が各授業の目標を共有し、評価規準とは別に適切に評価するための評価基準を設定し、評価の場面や方法を工夫しました。各教科の授業を通して、子どもの成長を捉えることができました。

実施

スケジュール

Research

5月26日(木) 打合せ

Vision

7月20日(水) 全体会①

Plan

5月下旬～ 学習指導案の作成・検討

Do

9月14日(水)
10月6日(木) 研究授業・研究協議

Check & Act

1月23日(月) 全体会②
1月下旬 アンケート集約

全体会

7月20日(水)「観点別学習状況の評価」について

支援教育推進室指導主事より(以下資料より抜粋)

目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価を推進するために、学習指導要領において「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理されていることを確認しました。三つの観点から見取る内容を説明しました。提示した事例より「個別の指導計画」の作成と各観点の評価規準を作成していただき、その内容についてグループ協議をしました。

テーマ

つながりが見える！わかる！

～シラバス作成から評価まで教科の視点で子どもたちの成長を捉えよう！～

「知識・技能」の評価について

知識・技能

「知識・技能」の評価の考え方は、従来の評価の観点である「知識・理解」「技能」においても重視してきたことですが、具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事象的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。また、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど多様な知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことも考えられます。

【備考】学習指導要領(小・中学校版)、令和2年より 文部科学省 国語教育推進研究協議会 関係資料

- これまでの評価の観点である「知識・理解」「技能」と関係の考え方に沿って評価を行う観点である。
- 空想によって得た知識や技能を他の学習場面においても活かしているかどうか。
- 自立や社会参加、日常生活や社会生活に生きて働く技能や知識になっているか。

学習指導要領の考え方

新しい時代に必要とする資質・能力の育成に 学習指導要領の充実

学びの機会を拡大し、主体的に学ぶ機会を創出する

何を学べるようになるか

何を学ぶか

どのように学ぶか

事例から考える「主体的に学習に取り組む態度」

【評価メモ】

- 練習を通して自らに任せるような表現の工夫を考え、発表会に際合うように自らを準備を促しているか。
- (A)判断するポイントの例
 - 速やかさ・丁寧さ・集団への発言・興味の広がり・応用・活用の意識など

(四捨の事例のポイント)

- 総時間数5時間の単元において、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を3時限のみで行っている。
- 生徒が工夫したり、話し合いを行ったり、目標を練ったりなど、自らの学びを調整して取り組む姿勢を見せている。
- 評価方法は授業観察(ノートによる方法)を用いている。
- 評価規準は、本単元の言語活動等に応じて、①②の側面を念頭で記述されていること。①→粘り強い取組を行うこと、②→自らの学習を調整しようとする態度
- 「評価メモ」により、どのような生徒の姿が「良」とあるが明確にしている。

「知識・技能」の評価について

知識・技能

「知識・技能」の評価の考え方は、従来の評価の観点である「知識・理解」「技能」においても重視してきたことですが、具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事象的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。また、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど多様な知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことも考えられます。

【備考】学習指導要領(小・中学校版)、令和2年より 文部科学省 国語教育推進研究協議会 関係資料

- これまでの評価の観点である「知識・理解」「技能」と関係の考え方に沿って評価を行う観点である。
- 空想によって得た知識や技能を他の学習場面においても活かしているかどうか。
- 自立や社会参加、日常生活や社会生活に生きて働く技能や知識になっているか。

グループワーク

個人ワークで考えた個別の指導計画について交流しましょう

